

「びわほなみ」の収穫は5月末頃から

～子実水分30%以下を確認して遅れないように収穫を～

《本年産の特徴と適期収穫》

- 4月の気温が高く推移し、現在の生育は平年より早まっています。
- 5月15日時点の穂の水分から、収穫適期は昨年より少し早まると予想されます。
- 「びわほなみ」は播種時期が遅いほ場でも、収穫時期は6月初旬となりそうです。刈り取りが集中することを想定して、子実水分の確認を始めましょう。
- 上記の予想を参考に、適期収穫ができるように準備をしてください。

（参考）子実水分30%以下の穂の状態

緑色が完全に消失して黄白色となり、粒が爪でなんとか割れる時期

- 収穫作業は安全確認を充分行い、事故を防ぎましょう。

《収穫作業のポイント》

1. 小麦の収穫開始は子実水分 30%以下！

子実水分が30%以下になってから収穫を始めましょう。麦に露がつきやすい早朝・夕方・降雨後は、穀粒の水分が著しく上昇するため、収穫作業は避けてください。

《子実水分が高い場合のリスク》

- ・コンバインの回転数が高すぎると、粒が損傷し品質が低下します。また、収穫作業時の子実水分が高いと、より損傷粒が増加しやすくなります。
- ・乾燥調製施設のホッパー等が詰まり、処理能力の低下や乾燥ムラの原因になります。
- ・赤かび病等の病原菌がまん延したり、発熱や発酵、ムシやすくなります。

2. 必要に応じて刈り分けの判断を！

以下のような場合は、刈り分けが必要です。

- ・ 赤かび病の発生が多い
- ・ 遅れ穂が多い（選別時、未熟粒が混入する恐れがある）
- ・ 倒伏の程度が大きい
- ・ 雑草の種子が混入する恐れがある（カラスノエンドウなど）

3. 収穫後は速やかに乾燥施設へ！

湿度の高い時期の収穫のため、ムシによる品質低下や赤かび病の感染拡大を防ぐ必要があります。収穫した麦粒は長時間放置することは避け、速やかに乾燥施設に搬入しましょう。

4. 刈り遅れに注意！ ～「びわほなみ」では特に注意～

刈り遅れると、容積重の低下や穂発芽の増加で品質が低下し、赤かび病のカビ毒による汚染のリスクが高まります。

○収穫に向けて今一度、排水対策の徹底を…！

登熟期の湿害は減収するだけでなく、品質を大きく低下させます。また、大豆の播種作業を計画的に進めるためにも、排水溝を点検し速やかに排水されるよう、溝さらえなどを徹底しましょう。